

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4271401160
法人名	医療法人 弘池会
事業所名	医療法人弘池会 グループホームかづさの杜2号館
訪問調査日	平成 20 年 9 月 18 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 25 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271401160		
法人名	医療法人 弘池会		
事業所名	医療法人弘池会 グループホームかづさの杜2号館		
所在地 (電話番号)	長崎県南島原市加津佐町戊4427番地 (電話) 0957—87—5699		
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年9月18日	評価確定日	平成20年11月25日

## 【情報提供票より】(平成 20年 8月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	5.9 人

### (2) 建物概要

建物形態	(併設) / 単独	(新築) / 改築
建物構造	耐火建築物 造り	
	3 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	6,300 円
敷金	有( ) 円	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	262 円	昼食 367 円
	夕食	420 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成 20年 8月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.5 歳	最低 72 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	口之津病院、菅歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな自然に囲まれた場所に位置する事業所で、職員は、利用者ができることを尊重し、一緒に取り組みながら日々の生活の支援に取り組んでいる。事業所は集落から少し離れたところにあり、地元の人々との交流が難しい面もあるが、近隣の小学校の行事に参加したり、保育園のお遊戯会に参加したりすることで地域との交流を図ろうと努力している姿勢が窺える。また、法人内の協力体制がしっかりとできており、緊急時の対応や感染症対策をはじめとする研修や委員会が行われている。ホームの運営においても、法人内の連携や協力医療機関との連携等に努め、よりよいサービス提供に努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果を受け、計画作成担当者を中心とし職員皆で話し合い、ひとつずつできることから、評価結果を活かして改善に向けて取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を行い、職員同士業務の見直しや改善に取り組むように心がけている。自己評価自体の取り組みについても、職員全員で取り組んでいくことを期待したい。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、行政関係者、家族代表、地域住民代表、管理者、職員で構成され、2ヶ月に1回開催している。会議では事業所の状況報告、外部評価の結果報告等を行い、参加者との意見交換を行っており、サービスの向上に活かされている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族との定期的なカンファレンスにおいて、利用者の様子などについて報告しており、また、意見、要望等を積極的に聞くよう努めている。現時点では、家族からの意見、要望が出されることは少なく、カンファレンスを継続しながら、気軽に意見を出してもらえ関係づくりに努めることを期待したい。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の小学校の行事や保育園のお遊戯会等に積極的に参加している。地域の中学生の体験学習を受け入れたり、保育園児の訪問があったりして、交流を図っている。また、時々地域の方々がホームに立ち寄ってくれるときなどにも交流を図っている。買い物、外出等を活用しながら地域との交流を考えるなど、さらなる工夫や取り組みを期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念のもと、事業所独自に、家庭的な環境を重視して、利用者一人ひとりがその人らしく日々暮らして行けるよう理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、法人理念について日常的に職員に話をしている。また、玄関に事業所独自の理念を掲げている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学校の行事や保育園のお遊戯会等に積極的に参加している。地域の中学生の体験学習を受け入れたり、保育園児の訪問があったりして、交流を図っている。また、時々地域の方々がホームに立ち寄ってくれるときなどにも交流を図っている。	○	ホームは集落地から少し離れた所に立地しているため、難しい面もあると思われるが、隣接する母体法人のデイサービスの利用者との交流、買い物、外出等を活用しながら地域との交流を考えるなど、さらなる工夫や取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を踏まえ、毎月1回管理者を中心に職員全員で話し合いを行い、評価の意義について理解を深めている。また、評価項目に基づいて、具体的な改善に向けた取り組みを行っている。	○	外部評価の取り組みと同様に、自己評価についても職員全員で定期的に取り組んでいくことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、行政関係者、家族代表、地域住民代表、管理者、職員で構成され、2ヶ月に1回開催している。会議では事業所の状況報告、外部評価の結果報告等を行い、参加者との意見交換を行っており、サービスの向上に活かされている。		

長崎県 グループホームかづさの杜2号館

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1度の運営推進会議に市の行政担当者が参加し、現状や外部評価の結果等について話し合いを行っている。	○	市にグループホームの特徴、役割等を広く理解してもらうためにも、市の職員の研修の場として活用してもらうなど、運営推進会議以外にも関わる機会を作り、関係作りに取り組むことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的に家族との面談を行っており、ホームでの暮らしぶりや介護計画、金銭管理等の説明を行っている。来訪できない家族等については、電話で日々の生活状況等の報告を行なっている。また、緊急時など、必要に応じてその都度連絡を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と定期的にカンファレンスを行っており、意見、要望等を積極的に聞くよう努めているが、家族からの意見、要望が出されることは少ない。	○	意見、要望等を引き出すとともに、家族と一緒に利用者のホームでの生活についての話し合いを継続することで、関係性を構築し、気軽に要望を出してもらえるよう働きかけることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームの職員の異動は行われておらず、馴染みの職員によるケアができる体制となっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人の研修に毎回参加しているほか、外部の研修にも業務に差し支えないように配慮しながら積極的に参加している。また、研修に参加した後は、報告書の提出、ミーティングでの報告、報告書の回覧を行い、職員全員が情報を共有できるようにしている。	○	グループホーム独自の勉強会についても取り組みの検討を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ町内の「ケアネット」に参加、同業者や福祉関係者との交流を積極的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前後に家族等と十分に話し合いを行っている。また、職員は自然な関わりに努め、利用者がなじみやすいようにスムーズな援助が出来るように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「利用者は人生の先輩である」という考えを職員間で共有し、日々のケアを行っている。食事の準備や食事中も利用者と一緒に過ごすなど、きめ細やかな支援のもと、よりよい関係づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の会話の中などで、希望や意向の把握に努めている。また、家族とも話し合いながら希望等をできるだけ実現できるように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族に意見や要望を聞き、それに沿った介護計画を作成している。特に、家族からの意見や要望が少ないので、本人との日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、介護計画に反映させるよう努めている。利用者のできることを十分に把握し、計画の中に活かしている。	○	今後も、家族等とのカンファレンスを重ね、意見を出してもらえるよう働きかけに努めることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族とのカンファレンスを行いながら、定期的に介護計画の見直しを行っている。また、必要時には随時見直しを行っている。	○	日々の支援における職員の気づきや意見を記録し、ミーティング等で随時検討しているため、これらの日々の検討事項についても、介護計画に反映させるなど、より効果的な計画の見直しに取り組むことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じ、通院の同行など必要な支援について柔軟に対応している。また、法人内のサービスも効率的かつ有効に活用して支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に家族と話し合い、受診する医療機関を決定している。また、利用者の主治医、家族、協力医療機関等と協議のうえ、適切な医療を受けられる支援体制を整えており、受診や通院は家族の同意のもとにホームの職員が支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を整備しており、入居の際に家族等の希望を聞き、双方で納得のいく話し合いを行っている。重度化や終末期に向けての支援については、利用者や家族、かかりつけ医、協力医等と繰り返し話し合い、情報を共有するよう努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングなどで、プライバシーの確保について職員の意識が向上するよう取り組んでいる。また、便りや広報などに使う写真、個人情報について、家族に許可を得るなど、個人情報保護にも積極的に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の気持ちを尊重し、それぞれのペースに合わせて支援するよう努めている。訪問調査当日も、利用者それぞれに自分のペースで過ごしている様子が窺えた。		

長崎県 グループホームかづさの杜2号館

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状態などに合わせて、利用者が職員と一緒に料理の盛り付けを行ったり、後片付けを行ったりしている。後片付けなどは、利用者同士協力しており、他の利用者の食器を片付けている方もいる。	○	利用者と一緒に食材を選び、献立を考えるなど、食の楽しさ、喜びを分かちあえる環境づくりの検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者一人ずつ、その人のペースや希望を大切にできるように支援している。	○	入浴時間は10時～15時と決まっているが、実際には利用者の希望に合わせてできる限り対応しているので、時間の設定を変更することも検討してみてもどうか。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が一人ひとりその人らしい生活ができるように、食事の準備等得意なことをしてもらったり、ちぎり絵などの取り組みを提案したり、地域の保育園児との交流の機会を作るなど、役割や楽しみごとを持てるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に合わせて、買い物やドライブ等の外出を計画して、支援している。気分転換などの意味も含めて外出支援に努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵はかけず、人が出入りしたらわかるようにドアに鈴を付ける等の工夫を施し、利用者の安全面への配慮を行いながら自由に行動できるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災等災害マニュアルを整備し、マニュアルに基づき訓練を行っている。訓練は、消防署との連携のもとに実施しており、避難場所についても全職員が把握している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分などの摂取状況は一日を通してチェック表に記録し、全職員が情報を共有している。また、献立については、献立担当の職員が交代で作成している。	○	法人内の管理栄養士に栄養のバランス等についてアドバイスを受けるなど、さらなる工夫や取り組みを期待したい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には利用者が作成したカレンダーや季節に合わせたちぎり絵を飾るなどして、利用者にとって居心地のよい空間づくりに努めている。また、室内の換気等も十分に行なわれ快適な環境への配慮がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビや雑誌、時計、家族の写真など利用者の馴染みのものを持ち込んでもらい、本人や家族の意向を尊重して、居心地のよい居室づくりに取り組んでいる。	○	家族等に、より積極的に居室づくりへ参加してもらえよう、地道な働きかけを期待したい。